

伊勢市横輪町・横輪桜品種同定調査報告書

平成23年6月

公益財団法人 日本花の会

I. 緒言

よこわざくら ちょうない じょうどしんしゅうほんがんに は こうかさんけいりんじ みえけん いせしよわちよう えどじだい
横輪桜は町内の浄土真宗本願寺派 弘化山桂林寺(三重県伊勢市横輪町285)に江戸時代
こうき まえ さくら ね など ぞうしよく なえ ちょうない
後期、150年ほど前からあったといわれる桜で、根から出たひこばえ等により増殖した苗が町内
かくしよ たすう しよくさい かいかじき さくら かいさい ちいき しげん かつよう
各所に多数、植栽されており、開花時期には桜まつりを開催するなど地域の資源として活用され
ている。ちく ちな よこわざくら なづ さくら ひんしゆ
地区に因んで横輪桜と名付けられた桜ではあるが、品種としてどのようなものか明確に
なっていないため、よこわちようかつせいかいじんかい いらい う たなかひであき どうかいゆうきのうじようちよう
横輪町活性化委員会からの依頼を受け、田中秀明・当会結城農場長によ
ちようさ じっし
り調査を実施した。



けいりんじけいだい よこわざくら
桂林寺境内の横輪桜



ね はっせい せいしつ
根からひこばえが発生しやすい性質がある

II. 材料および方法

へいせい げんち おとず じゆけい はな とくせい ちようさ は とくせい げんち
平成23年4月6～7日に現地を訪れ、樹形や花の特性を調査した。葉の特性については現地よ
そうふ なまひようほん ちようさ るいじひんしゆ どうかいさくらみほんえん ほぞん
り送付された生標本を5月17日に調査した。また、類似品種として、当会桜見本園に保存されて
いるせんりこう おおちようちん ちようさ じっし かくぶ しようさい ひかく けんとう
いる千里香、大提灯についても調査を実施し、各部について詳細に比較・検討した。



ちようさ よこわざくら へいせい
調査した横輪桜 (平成23年4月7日)



Ⅲ. 調査結果

この桜は、既存品種の千里香、大提灯に類似した品種とみられたが、花や葉の各部を比較した結果、葉縁の鋸歯の形、苞葉の形および花色が異なることから、これらの品種とは明確に区別され、いままでに知られていない新しい園芸品種と判断した。

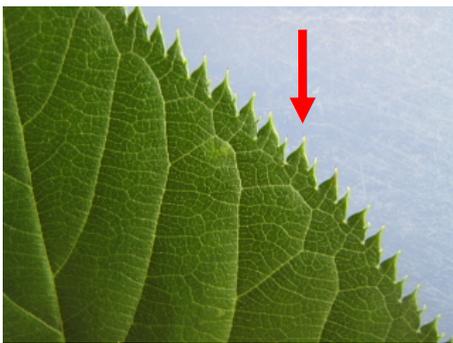


千里香



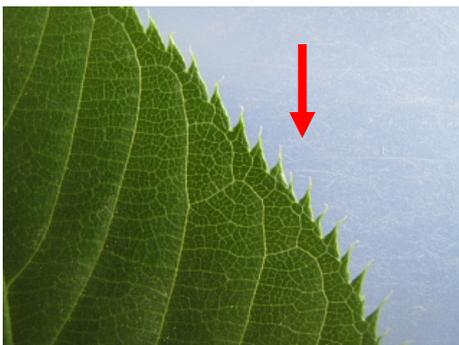
大提灯

1. 比較した類似品種



横輪桜

鋸歯の先端が糸状に伸びない



千里香

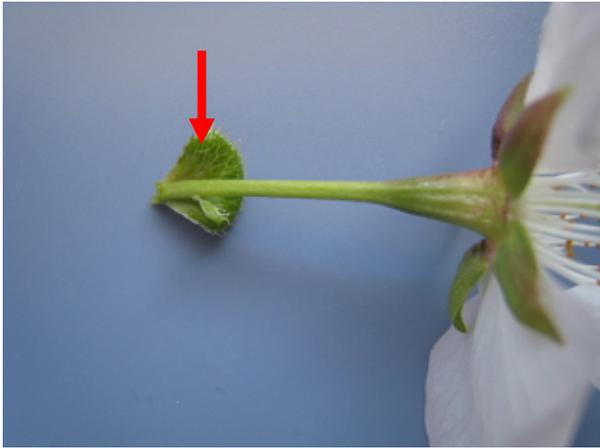
鋸歯の先端が糸状に伸びる



大提灯

鋸歯の先端が糸状に伸びる

2. 相違点—1 成葉の葉縁の形



ほうよう
苞葉



よこわざくら おうぎがた
横輪桜 (扇形)

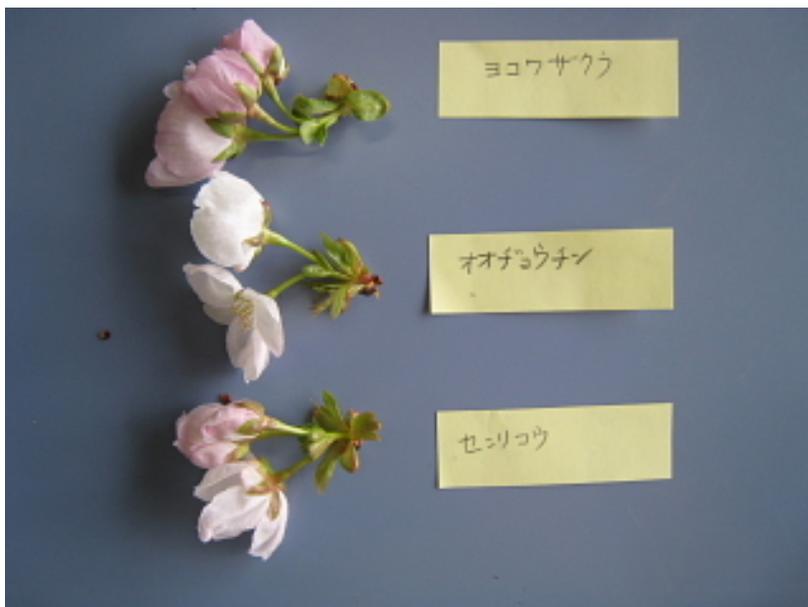


せんりこう がた
千里香 (くさび形)



おおちようちん だえんけい
大提灯 (楕円形)

3. 相違点—2 花序の苞葉の形



よこわざくら たんこうしよく
横輪桜 (淡紅色)

おおちようちん ごくうす
大提灯 (極薄いピンク色)

せんりこう ごくうす
千里香 (極薄いピンク色)

4. 相違点—3 花色

よこわざくら IV. 横輪桜 (ヨコワザクラ *Cerasus* 'Yokowa')

この桜の特性概要は以下のとおりである。樹形は樹齢が若い個体は盃状、年数を経た個体は傘状となる落葉高木で、樹幹は灰褐色、ときに気根が発生することがある。枝は太く、新梢に毛はない。若芽は黄褐色(JHSカラーチャートNo.1613茶)。成葉は長さ14~16 cm、幅7~9 cm、楕円形、先端は尾状鋭尖形、基部は鈍形、鋸歯は重鋸歯で芒形。表面は濃緑色((JHSカラーチャートNo.3707暗緑)、裏面はわずかに白色を帯びる(JHSカラーチャートNo.3511浅黄緑)。葉柄は約3.5 cm、葉柄上部に蜜腺がある。花序は散形状または散房状で3~5花からなる。苞葉は緑色、扇形で鋸歯の先端が長く伸びる。花柄の長さは約1.5 cm、小花柄は長さ約2 cm、花の向きは下向きから横向きが混ざる。一重八重咲で花の直径は5~6 cmの大輪花である。がく筒の形は長鐘形、がく裂片は長卵状三角形で舟底形、全縁で紅緑色。花弁は5~9、ときに14個、円形で長さ約2.7 cm、幅約2.8 cm、先端の切れ込みはやや多い。蕾の色は淡紅色(JHSカラーチャートNo.9204鮮紫ピンク)、花色は微淡紅色(JHSカラーチャートNo.9201ピンク白)で花弁外側や部分的にやや濃い色((JHSカラーチャートNo.9202淡紫ピンク)となる。雌ずいは1本、雄ずいより短い。葉化はしていない。花に香りがある。横輪町での開花期は4月上旬、染井吉野より1週間ほど遅れて開花する。

ちゆう さくら えんげいひんしゆ (註)桜の園芸品種とは

桜の園芸品種とは花色や花弁の形などの形態的特性や開花期の早晚などの生態的特性において明らかに他の個体と区別される特性を持つ個体に対し固有名詞を与えたもので、株分けやつぎきなどの栄養繁殖により同じ特性を持つ個体を増殖することができる。

かくけいしつ しゃしん V. 各形質の写真



ねんせいぜん ご
10年生前後



やく ねんせい
約70年生

じゆ けい 1. 樹形



せいようぜんたい かたち
成葉全体の形



せいようせんたん かたち
成葉先端の形

せいようきぶ かたち
成葉基部の形

2. 葉の形質



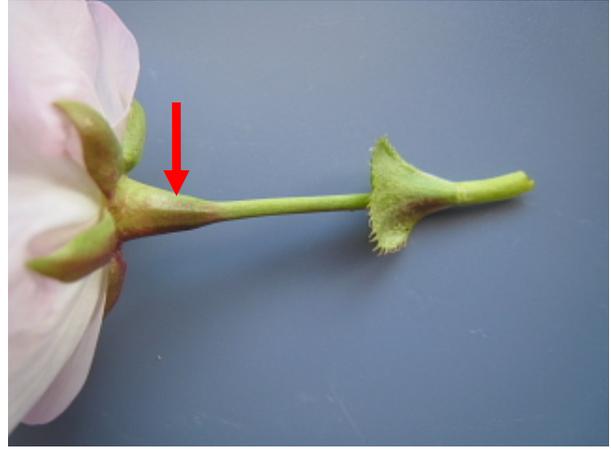
かじょぜんたい
花序全体

しょうか けいじょう
小花の形状

3. 花の形質 (花序や小花の形状)



がく片の形 へん かたち



がく筒の形 とう かたち

4. 花の形質 (がくの形) はな けいしつ (がくのかたち)



花弁数 5~9個 か べんすう こ 個体により14個の花もみられる こたい により 14こ はな もみられる

5. 花の形質 (花弁数) はな けいしつ (か べんすう)

V. 品種解説について ひんしゅかいせつ

パンフレットなどに使われている解説は以下のとおりであるが、花の解説などに若干、修正を加えてみたい。

1. 別添 パンフレットより 横輪桜 べってん よこわざくら

「横輪町にのみ存在することから、この地域では横輪桜と呼ばれています。横輪桜は江戸時代後期に、桂林寺にあったものを村人が持ち帰り、増やしたものとされています。大きな特徴は雄しべが変化し花びらになり開花と同じくして葉もつき始めることです。開花時期はソメイヨシノより数日遅れ、花の大きさも2~3倍大きく、濃いピンク色の大輪が年を重ねるごとに増え、15年くらい経つと、12枚ほどの花びらをつけるものもあります。」

2. 修正案

「横輪町にのみ存在することから、この地域では横輪桜と呼ばれています。横輪桜は江戸時代後期に、桂林寺にあったものを村人が持ち帰り、増やしたものとされています。この桜は雄しべが変化した花びらが1枚以上ある花が混在し、12枚以上の花びらをもつ花もあり、年を重ねるごとに花数が増し、樹全体が花で覆われるようになります。開花時期はソメイヨシノより数日遅れますが、新芽が伸び始めると同時に、濃いピンク色で香りのある大輪の花を咲かせます。なお、専門家の調査により今までに知られていない新しい園芸品種であることがわかりました。」